

# 令和3年度自己評価

学校法人撫子学園 ふじなでしこ こども園

## 1、「令和3年度の目標（内容）」について

令和3年度の目標（内容）	反省・意見
<p data-bbox="140 1037 165 1187" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">園の情報を発信</p> <p data-bbox="204 1391 480 1451">保護者の安心感、園児獲得につなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Instagramを使い、様々な情報発信ができたことは大きな進歩であった。反面、ホームページのリニューアルが進展せず残念だった。</li> <li>・Instagramを始めたことにより、楽しい雰囲気の様子を発信できている。</li> <li>・職員がInstaを投稿しやすい環境（タブレット等）を整えて、園の携帯電話を持ち歩かなくてもよいようにしたい。</li> <li>・園児学等では広告代理店の協力も得てInstagramに広告をあげ、一定の成果を得られたのは良かった。</li> <li>・Instagramでの給食の投稿は毎日ではなく、行事食などのときだけでよいのではないかな。</li> <li>・Instagramの投稿の内容が各部署によってさまざまなので、次年度は内容の見直しをしたい。</li> <li>・Instagramは、得意な職員や意識的に投稿しようとする職員の発信に限られてしまった。活用方法の共通理解が必要である。</li> <li>・Instagramは普段の様子をホームページよりも気軽に投稿できた。クラスや学年によって投稿回数に差があるので担当者を決めても良いと思う。</li> <li>・給食の作業工程の写真は見ていて楽しい。</li> <li>・うさちゃんらんの投稿をもっとすべきだった。</li> <li>・日常的な様子をもっと発信したい。</li> <li>・行事や普段の遊びの様子を見られるので保護者はうれしいと思う。</li> <li>・園の様子を発信するSNSの取り組みやドキュメンテーション等を行うようになったのは良かったと思う。</li> <li>・にじのクラスの入り口のドキュメンテーションの掲示も活動の様子を伝えられている。</li> <li>・写真の掲示を優先し、その日のうちに子どもたちの様子を見てもらえたことで親子の会話につながり、喜んでもらった。</li> <li>・ドキュメンテーションは日頃の子どもの様子を伝えることができ良かった。子どもたちも自分の写真が載るか楽しみにしている。</li> <li>・玄関のモニターで普段の保育の様子がスライドショーで映し出されているのは良かった。</li> <li>・ホームページの担当としてより正確でわかりやすい園の様子を発信していけるよう心掛けた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事だけでなく日々の保育の一コマをSNS用に写真に収めることはできても投稿できずに終わってしまうことも多かった。日常の業務の中でSNSの発信も意識しながら行えるよう工夫していかなければならないと感じた。園の特徴や雰囲気が伝わるよう発信しつつ園児獲得につながるよう努めたい。</li> <li>・うさちゃんらんの様子を投稿し、見てもらうことができた。</li> <li>・クラスでの活動をInstagramに積極的にアップするなどして保護者や入園希望の方が興味を持てるような投稿をすることができた。</li> <li>・Instagramの更新は保護者が楽しみにしていた。</li> <li>・SNSはクラスの様子が伝わりやすく、時代に合った発信方法だと思う。今まで見る機会がなかった瞬間を見られることで保護者の方の安心感へつながったと思う。</li> <li>・Instagramの活用により、入園前の保護者に対しても情報発信ができたと感じる。内容をより工夫しながら今後も取り組んでいきたい。</li> <li>・ホームページのメニューに未就園児サークルについて入れた方が良い。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">食育活動の充実</p>	<p>栄養士や給食室の職員と連携を取り、意見やアイデアを出し合いクッキング等に取り組む</p> <p>ふじなでしこども園として独自性のある給食（地産地消の食材、献立等）を紹介（発信）していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食室との連携の仕方に工夫がなかった。土台作りにもっと役職者がかかわるべきだった。</li> <li>・食育、クッキングについては、より具体的な打ち合わせ、意見交換が大事だと感じた。そのために計画的に会議を持つようにすすめていきたい。</li> <li>・連携の取り方がうまくいっていなかった。食育活動は、クッキングや栽培・収穫だけではなく、栄養教育も必要だと思うので、そこを充実させたい。</li> <li>・全学年がクッキング活動を行うことができたのは良かったが、見通しをもって計画を立てられるよう話し合いをもっとしっかりと行っていきたい。</li> <li>・4歳児は初めて味噌づくりに取り組んだ。大豆の種まき、収穫、昔ながらの製法を経験できたことは、子どもたちにとっても手間や作っている人の気持ちを知るよい機会となった。</li> <li>・5歳児の買い物体験は子どもたちが楽しんでいたので次年度も継続していきたい。</li> <li>・アレルギーや感染症予防等の配慮事項が多い中、どのようなクッキングができるか情報収集する必要がある。</li> <li>・子どもたちが繰り返し楽しんでいた感触遊びから食育へつなげるようなクッキングの内容を話し合い実践した。</li> <li>・収穫したものをクッキングに利用することは年間を通した活動になるのでより充実したものになる。</li> <li>・クッキングをたくさん経験させることができ、給食室の職員も楽しそうに参加してくれた。給食室の職員には日頃の様子も見に来てもらいたい。</li> <li>・0歳児でもクッキングに取り組むことができた。職員同士で子どもたちが取り組めるものを考え、子ども自身も楽しんで取り組むことができて良かった。</li> <li>・学年で育てた食物をクッキングに使った。栽培から調理、食事まで食育活動を継続して行うことができた。</li> <li>・クッキングへの取り組みや地産地消メニューなど工夫されていた。</li> <li>・クッキングでは年齢に応じた活動を考え、栄養士に提案した。</li> <li>・クッキングでは、全員が同じものを食べられるものでクッキングを行えるよう、栄養士と連携を取り合っていた。</li> <li>・栄養士、給食室の職員からもアイデアがもっと出ればより良いクッキングになると思う。</li> <li>・リクエストメニューにより、子どもたちが食材に興味をもつ機会が多かった。</li> <li>・にじでもクッキングに取り組むことができた。給食室とも協力して取り組むことができた。</li> <li>・3歳児クラスのテラスに畑があることで野菜や植物の成長を身近に感じるすることができた。</li> <li>・行事にちなんだ献立は食育につながるので今後も続けたい。</li> <li>・苦手な食材を克服するために、どんな栄養が元気な体をつくるのかというお話し会、頑張って食べられるようになったことへの表彰式などを企画してもよいのではないかと。</li> <li>・地産地消や新たな献立への取り組みは良かった。</li> <li>・Instagramに給食の投稿をしたことで、普段バス通園で保護者が園にお迎えに来ない家庭でも給食を見ることができて良かったと思う。</li> <li>・Instagramへの投稿は継続されたので、独自性がほしい。</li> <li>・給食の紹介の発信については、食に悩んでいる保護者も多いと思うので、作っている過程の写真のみではなく、材料や作り方も具体的に文字で載せると見る側の興味を引くことができるのではないかと。</li> <li>・絵本にちなんだ給食やおやつがあると、低年齢の子どもたちにも親しみがもてるのではないかと。</li> <li>・降園時に親子で給食のサンプルを見て「全部食べたよ」「おいしかったよ」と会話する姿があった。その場にレシピや地産地消の食材の紹介などがあれば、Instagramと合わせて自園給食の良さの発信へとつながっていくのではないかと。</li> <li>・今年度から独自の献立で新しいメニューが増え、子どもたちが喜んで食べていた。</li> <li>・土曜保育のおやつは、毎週0～1歳児はマーガリンパンとなり食べ進まない子どもの様子も見られているので、改善が必要だと思われる。</li> <li>・保護者からも郷土料理や家庭で作っているおすすめメニューを募集してみるのもおもしろいのではないかと。</li> </ul>
--	---	--

<p>衛生・健康管理の徹底</p>	<p>感染拡大防止のため、清掃や消毒の徹底の継続</p> <p>アレルギー対応児の食事の対応や衛生管理の仕方の共通理解</p> <p>体調不良児対応型病児保育事業の導入に伴う感染拡大防止の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師や養護教諭が適宜注意喚起を行っている。</li> <li>・専門的知識を保育の現場に分かりやすく示し、新型コロナウイルス等の対策や方向性を早目に確認し合い対応することができていると思う。</li> <li>・感染拡大防止のため、各保育室に空気清浄機やアルコール消毒が設置されているが、管理の仕方や置き場所などもっと徹底が必要を感じる。</li> <li>・園全体で感染症予防に対する意識が高まってきている。</li> <li>・消毒、子どもの座席や午睡場所の記録を徹底して行った。</li> <li>・換気を常に行い、保育室の温度や湿度、CO<sub>2</sub>濃度はこまめにチェックするよう気を付けた。</li> <li>・行事で忙しい日も、保育サポートの職員が保育室の消毒をしっかり行なって来てくれて本当にありがたかった。一人担任ではそこまでの徹底ができなかったと思う。</li> <li>・看護師が0歳児クラスに配置されているので、その都度感染予防対策を聞きながら消毒等を徹底することができた。</li> <li>・日頃の清掃や保育室の環境整備は職員一人一人が意識をして行えるようにしたい。</li> <li>・にじに比べるとおひさまの清掃、消毒が行き届いていないように感じる。</li> <li>・にじでは使うたびに玩具の消毒をしている。おひさまでも週1回でも行った方が良い。</li> <li>・感染の流行時に限らず常に消毒を丁寧に行った。おひさまは毎日消毒作業をすることが難しい時もあるため改善策を考えたい。</li> <li>・お昼寝用のござやおもちゃ等をその都度消毒することは難しく、常に衛生的に使えるよう工夫が必要である。</li> <li>・清掃や消毒が共通理解していないと感じることがあった。全員がきちんと理解していると思わず、その都度声をかけたり表示をしたりするなどの工夫が必要だったと思う。</li> <li>・2歳になると排便時のオムツ交換を恥ずかしく思う子もいるので、他児の視線の届かない場所の確保や配慮が必要と思う。衛生面や感染予防にもつながる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重いアレルギー対応児がいることで注意が徹底されている。</li> <li>・アレルギー対応は、給食室と保育者との間で確認が徹底されるようになってきた。</li> <li>・アレルギー対応児がいることで、食後の清掃を徹底し、子どもたちも手や口をきちんと拭き、手洗いが習慣になった。</li> <li>・アレルギー対応のため、食事の際は園児服を脱ぐことを習慣づけ、徐々に定着してきた。</li> <li>・除去食の対応についてもう少し丁寧に共通理解する時間を設けられれば良かった。</li> <li>・アレルギー児のための保護者との献立の確認の仕方が、おひさまとにじで異なる点があるので統一して共通理解した方が良い。</li> <li>・アレルギー児が休む日は給食室にも報告してほしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育事業については、看護師（兼養護教諭）が対応してくれることで保護者の迎えを安心して待つことができています。</li> <li>・熱性けいれんを持つ子どもの対応を通して、日々保護者とコミュニケーションを丁寧にとってきたことで、保護者からも子どもの体調の些細な変化や違和感をきちんと伝えてくれるようになり、園での早目の対応ができるようになった。</li> <li>・2歳児にとって医務室は慣れない場所のため、体調不良の際にお迎えを待つ場所として子どもが不安にならないか心配だったが、子どもたちは戸惑うことなくベッドで身体を休めることができ良かった。</li> <li>・保護者支援につながった。</li> <li>・にじにも感染を広げないための隔離するスペースがあれば良い。</li> </ul>
-------------------	--	--

<p>園庭環境の充実</p>	<p>子どもたちの遊びが広がる園庭環境の整備（中期計画として着手）</p> <p>「こんな園庭にしたい」というイメージや発想をもとに整備計画を立案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に遊べる園庭環境が少しずつ整備されている。夏も冬も楽しめる築山は園児、職員とも大好きで、当園のシンボルになり得ると思う。</li> <li>・第1期として、築山、砂場の設置、植樹ができて良かった。第二期でもより良い環境になるよう、予算を見ながら進めていきたい。</li> <li>・園庭に築山ができたことで子どもたちの遊びの幅が広がったと感じる。二段式の砂場も遊びの充実につながると思う。</li> <li>・築山や二段砂場など独創性の高い遊びを展開する子どもの姿を見ると、良い整備となったと感じる。</li> <li>・どのような園庭ができるのか、というワクワクから始まり実際に築山などで遊ぶことができてとても嬉しい一年だった。遊びの幅を広げることができた。子どもの姿に合わせるだけでなく、導いたり刺激を与えたりして保育者が意図を加えていくことも必要だと思う。</li> <li>・園庭の整備により、子どもたちの気づきや興味も広がると思うので、保育に取り入れたり遊びの幅を広げたりしていけるように保育者自身が学びを深めていくようにしたい。</li> <li>・にじの子どもたちも遊びやすい園庭になった。</li> <li>・季節が変わるごとに遊び方も様々になり子どもたちの様子から環境に満足していることが伝わってきた。</li> <li>・次年度も子どもたちと一緒に園庭環境の楽しみ方を探っていきたい。</li> <li>・園庭整備後に使い方や片付け方など職員で確認したことは良かった。今後も職員一人一人が環境を整えようとする気持ちをきちんともち、子どもたちにも伝えていくことが大切である。</li> <li>・園庭の環境が変わり、危険個所を確認し、職員間で共通理解をしながら安全に配慮した。</li> <li>・親しみやすい名称を考え愛着をもつことができた。</li> <li>・死角が増えたため、事故等が起きないように職員配置に気を付け注意しながら遊びを見守った。</li> <li>・遊びの環境が広がったことによる新たな危険個所等は、安全面への配慮について職員の共通理解と協力が必要で、まだまだ課題があると感じる。</li> <li>・冬場はわくわくトンネルが凍っていて転倒する子もいた。</li> <li>・木のアスレチック遊具が無くなり残念だった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算と見合いを付けながら慎重に進めているが、10年後、20年後を見据えたイメージを職員と共有できたら良い。</li> <li>・職員の思いや発想を言葉にして計画していくことの大切さを感じた。</li> <li>・園庭の企画を担当し、子どもが楽しめる環境や成長のための遊具を考えることができた。</li> <li>・昆虫観察や生育観察ができる場所やポニーやウサギの飼育場所があると楽しい。</li> <li>・「つっぴい」という名称が子どもたちの会話にも出てきて微笑ましかった。他の場所にも名前や看板などがあればよいのではないか。</li> <li>・園庭で遊んだ後に、足元が濡れることなく手を洗える洗い場があると良いと思う。</li> <li>・職員だけでなく、子どもの声や保護者の意見も参考にしていくとイメージが広がるのではないかと。</li> </ul>
----------------	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">おひさま職員（以上児クラス）とにじ職員（未満児クラス）の協力的体制の強化と人材育成</p>	<p>お互いの保育をより理解しながら、0～5歳児までの育ちが継続できる環境を充実させる</p> <p>保育以外の業務は、おひさまとにじで取り組める時間帯が異なるので効率よく分担する（時間外勤務の削減）</p> <p>互いに高め合いながら、新人、若手職員の育成に力を入れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の会議や定期会議だけでは共有や高め合いが難しいと感じる。全員が集まることができないので、研修グループを6～10班ぐらいに分けて行うのも良いかもしれない。</li> <li>・職員間の異動により、新たなチャレンジになった。お互いを理解し合い、働き方はもちろん、子どもの育ちを理解し保育を深めることにつながったと思う。</li> <li>・子どもの育ちにあった保育が展開されていたかは、多少疑問に思う点があった（トイレトレーニング、箸の使用、午睡時間等）。見通しを持った保育ができるような指導計画作成や情報共有が必要と思う。</li> <li>・0～5歳児まで全体の育ちや取り組みを継続するという部分ではうまくできなかったこともあった。年間指導計画の作成を通して各年齢の育ちを合わせたり理解したりしながら次年度につながるようにしていきたい。</li> <li>・職員配置が今年度おひさま・にじで入れ替わりが多かったこともあり、年度当初は戸惑いも見られたが、お互いの保育を理解するためにも入れ替えはあった方が良いと思う。</li> <li>・複数担任の良さ「他職員から学びを得る」を実践することができた。</li> <li>・コロナ過ではあるが、異年齢交流を増やしたい。</li> <li>・2歳児から3歳児への育ちの面での継続した取り組みという点に目を向けていなかった。つながりの部分を大切にしていきたい。</li> <li>・にじからおひさまへ進級する際には、ファミリールームの職員も子どもの引継ぎや情報共有をしたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の異動により、それぞれの良さを理解しながら業務を進められている。</li> <li>・職員の配置が変わったことは良いと思う。その立場にならないと伝わらないことが大半だと思う。</li> <li>・おひさまとにじで時間を合わせられるよう話し合い、効率よく業務が進むよう分担した。</li> <li>・おひさまは8時前に出勤するシフトが多いので、保育後に事務作業をすると16時、17時にすぐなくなってしまい、定時退勤が難しいことが多い。若い先生がもう少し早く退勤できるように協力したり声をかけたりしていきたい。</li> <li>・保育以外の業務は分担をした上で、おひさま職員への負担が大きくなりすぎていると感じる。にじだから解らないということがないようにしたい。</li> <li>・にじは複数担任のため、子どもの出席状況によっては午前中に職員が行事企画の準備へ取り組むことができた。</li> <li>・係の業務や事務整理等に充てる時間が短く、時間外勤務の削減の達成は難しかった。</li> <li>・時間外勤務については、大きい行事前は削減に至らないこともあったが、自分なりに勤務時間内に仕事を終わらせられるように努力した。</li> <li>・時間外申請については、もう少し気軽に付けられるようになってほしい。</li> <li>・時間外申請をしないで残業している職員が多い。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手育成は各部署で頑張っているが報告の機会が少なかったかもしれない。</li> <li>・新人、若手職員の育成については、今後も協力し合いながら取り組んでいきたい。</li> <li>・若手職員の中で、おひさまやにじに対し、個々にイメージを持っている様子がある。0～5歳児のどの1年も子どもたちの成長にとって大切な瞬間であることをもっと知らせていき、誇りをもって保育に携われるように関わっていきたい。</li> <li>・若手職員には、指導だけでなく感謝の気持ちを伝えることを意識し、良い環境の中で仕事ができるよう心がけた。</li> <li>・新人職員が戸惑わないように一緒に業務を行い、覚えられるようにした。</li> <li>・若手職員への指導が不十分な時もあった。</li> <li>・学年リーダーや先輩職員が若手職員に対し見通しをもって指導することが求められると感じる。</li> <li>・職員間の思いのすれ違いもあり、課題は多いと感じる。</li> </ul>
--	---	--

## 2, 園の取り組みについての評価（自己反省も踏まえて） 回答…50名

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

評価の観点	評価の項目	評価	評価項目の取り組みについて 意見等
教育・保育理念	諸規則の理解と実践 教育・保育方針 建学の精神	A 6名 B 44名 C 0名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念については、若手職員からベテランまで同じ視点や観点ではなくても経験や立場をわきまえた理解で良いと思う。</li> <li>・年度初めに建学の精神を再確認する園内研修が行われていて職員全体で共有できるのは良いと思う。</li> <li>・規則については理解を深められるようにしたい。</li> <li>・保育の振り返りをする際に、建学の精神や教育・保育目標と照らし合わせることで次に目指す先方向性が見えてくることも多いため、意識しながら取り組んでいきたい。</li> <li>・こども園で働いているということを意識しクラス活動での教育時間、ファミリールームでの教育も大切にしたい保育時間を考えながら子どもたちと関わった。子どもたちの育ちは柔軟で、保育者側がどのように育てほしいか、しっかり願いをもって保育を展開することが大切か考えさせられた1年間だった。</li> <li>・教育保育理念や行事のねらい等を保護者に伝えていくことが大切ではないか。</li> <li>・0歳児クラスでも教育・保育目標を考えながら保育を行った。発表会を通して表情が豊かになり日々の生活の中で思いやりのある子どもの姿を見ることができた。</li> <li>・勤務時間の5分前には行動できるよう心がけた。</li> <li>・関わる子どもや保育の状況が変化しても常に建学の精神を意識していきたい。「ぬくもりの中にけじめのある保育を」ということを一人一人が心において子どもと関わっていくことが必要である。</li> </ul>
子どもの発達援助	児童への対応 保育の在り方	A 6名 B 42名 C 2名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古き良いもの、不変的なもの、時代と共に変わるものを含め、新たな取り組みや挑戦があると良い。発展性が必要である。</li> <li>・支援が必要な子への対応がしっかりできていた（5歳児）。良かったところを他の学年の保育者と共有し、活かせるようにしたい。</li> <li>・子どもたちの思いに寄り添いながら一人一人と丁寧に関わるよう努めた。</li> <li>・配慮が必要な園児について、共通理解をしながら保育ができていると感じる。</li> <li>・子どもたちは一人一人個性があるが保護者にとっては大切な子どもであることを常に心にため、保育者主体にならない保育を実践した。また、学年3クラスが1年間を振り返ったときに同じ成長や経験を保証して就学していけるよう職員間の話し合いや共通理解は欠かせないようにした。</li> <li>・ねらいをもって保育することが大切だと改めて感じた。その都度、何を一番に考え、どう保育していくか担任同士で話し合うことができた。</li> <li>・子どもたちの見守りの仕方や危機管理を見直す機会があったので、次年度にもつなげていきたい。</li> <li>・コロナ対策を考えながら保育や行事を見直し、さらに柔軟な発想を出し合って取り組むことができたと思う。来年度も例年に倣うのではなく、新しい発想を取り入れながらベストな形を探っていきたい。</li> <li>・月齢の差に合わせ、保育室内を分けたり、コーナーでじっくり遊べる環境づくりをしたりした。</li> <li>・支援が必要な子には担任以外の職員や担当も同じような関わりができるような共有が必要である。</li> <li>・子どもの気持ちに寄り添える存在であるよう心がけた。</li> <li>・個々の成長に合わせ、言葉がけや援助ができるよう考え保育を行った。</li> <li>・子どもへの対応の仕方や指導の内容の違いなど複数担任の難しさを改めて感じたが、子どものどう育ってほしいかを共通理解し関わるようにした。</li> <li>・複数担任により保育の在り方を刺激しあいながらより良い保育になるように努めた。しかし、他の職員がいるという安心感から甘えが出てしまい、子どものトラブルや怪我につながってしまうことがあった。</li> <li>・ファミリールーム担当とクラス担任とで連携を取り、同じ方向で保育を進められた。</li> <li>・子どもたちが自己肯定感を失わず意欲的に物事に取り組めるように言葉がけを大切にしたい。</li> </ul>

	<p style="text-align: center;">安全 教育 に対する 取り組み</p> <p style="text-align: center;">保健 衛生</p> <p style="text-align: center;">危機 管理</p>	<p>A 14名</p> <p>B 34名</p> <p>C 2名</p> <p>D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ過での危機管理等は最上級だった。中堅、若手も意識が高まったので、継続の工夫が必要である。</li> <li>・安全管理は同じ職員だけがやるのではなく、持ち回り制にした方が良い。</li> <li>・情報の処理、管理、理解し正しい判断が求められる。職員との情報共有、協力体制が不可欠で、日々の積み重ねを大切にしたい。</li> <li>・感染症が流行しなかったことは、予防への意識が高まったからだと感じる。</li> <li>・子どもの動きや発達に合わせ定期的に環境の工夫をし、安全な環境を整えて事故防止に努めていきたい。</li> <li>・取り組まれてはいるが、一人一人の意識を高めていければと思う。</li> <li>・個別支援を必要とする子どもへのサポートや職員間での共通理解が十分に行えるようになってきている。</li> <li>・新しい取り組みに挑戦したり子ども主体の保育を意識したりすることで良い方向に変わったことも多かった。</li> <li>・命を預かっているという意識をもちながら危機管理、安全に対する取り組みを行った。</li> <li>・サポート職員のおかげで予防の取り組みがきちんとできた。</li> <li>・コロナ対策で子どもの行動や食事、午睡の場所をきちんと記録をした。</li> <li>・2歳児クラスと3歳児クラスの午睡の時間など年齢にあった生活リズムの配慮が良いと思う。</li> <li>・コロナ対策がそれ以外の感染症の予防にもつながっていると思う。</li> <li>・さまざまな対応機器の導入により心強い。しっかり活用していきたい。</li> <li>・各クラスの保健衛生については、指導を細やかにしてきたが、空気清浄機の管理等については個人差があることも目につくので、もう少し徹底できるよう取り組んでいきたい。</li> <li>・保育室内で危険なものや場所があったときには主幹や用務担当に報告し、安全な環境を整えることができた。</li> <li>・子どものマスク着用が定着し、着脱がスムーズになり、マスクの管理もきちんとできるようになった。</li> <li>・おひさまはヒヤリハットや事故報告が少なかった。</li> <li>・事故報告やヒヤリハットが続いた時期があったがクラスの職員でその都度体制を考え直し対応したことで改善されて良かった。</li> <li>・コロナ対策について、常に新しい情報を取り入れ、取り組めていたと思う。</li> <li>・避難訓練では、その都度非難することの大切さを年齢に応じた分かりやすい言葉で伝えた。</li> <li>・訓練を企画する際、細かく状況や対策を考えられれば良かった。</li> <li>・新人職員に保育室の環境の整え方を適確に伝えられれば良かった。</li> <li>・職員が感染予防に努めるのはもちろん、子どもが自ら予防に取り組むことも大切である。感染予防についてきちんと伝えていくことが必要である。</li> <li>・安全面に関して保育中の職員配置や声掛けを徹底して、誰かが見ているだろうではなく、保育者一人一人が緊張感と責任感をもって保育にあたる必要がある。</li> <li>・年度当初に子どもたちと廊下の歩き方を確認した。何度も繰り返し伝えることで、事故や怪我が減少した。</li> <li>・0歳児の保育室は広く、冬場になると湿度が低くなり乾燥が気になる。加湿器を2台使い、工夫はしているが、換気もこまめに行っているため、湿度を保つことは難しいと感じる。</li> <li>・午睡の際、スペースを広く取り、感染症対策に努めた。</li> </ul>
--	--	---	--

<p style="text-align: center;">様々な生活リズムや年齢の児童への配慮</p>	<p>A 11名 B 35名 C 4名 D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年のつなぎ目に流れをつけるためのすり合わせが必要である。</li> <li>・月齢に合わせた生活習慣等の身に付け方を吟味した方が良い。</li> <li>・発達の連続性を職員全体で共通理解し、園生活の過ごし方を日々確認しながら進めたい。</li> <li>・子どもの発達について、職員全体での学びと共通理解が必要と思う。年齢に合った保育（配慮）が展開されるようにしたい。</li> <li>・早朝保育や預かり保育など子どもたちが安心して過ごすことができるよう職員間で連携を取りながら進めることができたと思う。</li> <li>・早朝、延長保育、土曜保育を利用する園児も多いので、今後も工夫した保育内容を見直していきたい。</li> <li>・午睡時間の取り方については改善すべき点や課題もあるため、年齢や個々に合わせた配慮が行えるようにしていきたい。</li> <li>・保育者の思いや願いはあっても子どもの受け止め方はそれぞれであるため、向き合い方や援助の仕方をさらに学び保育の幅を広げたい。</li> <li>・生活リズムの変化は子どもの体調に表れやすいので、機嫌が良いか、表情はどうかなど、その子の様子に合わせ、担任同士で共通理解し配慮をすることができた。</li> <li>・3歳児の午睡開始時間が遅いと感じる。ファミリールームを利用する園児は13:30に部屋を移動し、14:00には午睡開始できていると、午睡後や帰宅後の生活にも無理がないのではないかと。来年度はそうに進めていきたい。</li> <li>・0歳児は月齢等によって生活の流れが違うので、一人一人に合わせて保育を行った。保護者との連携を密にし、成長に合わせた生活リズムを整えられるように心がけた。</li> <li>・保育時間が長い子が増えてきているので午睡時間を十分に確保していきたい。</li> <li>・様々な家庭環境があるため、その子に合った安心できる環境づくりをした。</li> <li>・一人一人の生活リズムや個性に合わせて適切な対応をできるよう心がけた。</li> <li>・年齢に合った言葉のかけ方やかわり方を意識しながら保育を行った。</li> <li>・子どもの生活の連続性に配慮した対応をしながら、時には家庭へのアドバイスも必要だと感じた。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">行事への取り組み</p>	<p>A 20名 B 29名 C 1名 D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に配慮しつつ、新たな取り組みへの挑戦が学年によりばらつきがある。</li> <li>・何のための行事なのか、目的と年齢なりの達成度、目標を意識することで、さらに意味あるものになると思う。</li> <li>・コロナ禍の中で、子どもたちのための行事であることを意識して取り組むようにしてきたと思う。</li> <li>・その時の状況の中でできることを職員同士で意見を出し合い、子どもたちもことを考えながら取り組んでいると感じる。</li> <li>・子どもたちや充実感や達成感を味わえるよう工夫して取り組むことができた。</li> <li>・コロナの影響を感じるのは大人だけであり、子どもは素直に楽しみ頑張ることができ、学ぶことが多かった。</li> <li>・自分の経験不足により、内容や取り組み方に工夫が足りなかった。</li> <li>・子どもたちは季節の行事に触れることができて良かった。</li> <li>・「例年通り」「昨年と同じ」ということが無くなり、その年の状況に合わせて行事の持ち方を考え直すため、職員の負担も大きくなっていると思うが、より良い内容になっていると感じる。</li> <li>・保育参観では、子どもが普段通り遊んでいるところを見られるような工夫をし、保護者からも好評だった。</li> <li>・行事への取り組みの中で、成功した時にはともに喜び合い楽しんで参加できた。</li> <li>・コロナ禍での行事への取り組みも2年目で昨年よりもさらに内容が見直され、たくさんの行事を実施できて良かった。「どうしたら実施できるか」と職員みんなで考えることも増え、良い見直しの機会にもなっていると思う。</li> <li>・様々な行事のやり方が変わる中で、楽しさや魅力を見つけられるよう考え提案することができた。</li> <li>・行事への取り組みが盛んになると子どもたちの疲れも出るので、うまく発散し、落ち着く時間を作るというような工夫は必要だと思う。</li> <li>・コロナ禍で、集会はホールに集まらずに各クラスで園内放送を聞くことが多かったが、子どもたちが楽しめるような配慮ができた。</li> </ul>



	食育への取り組み	<p>A 16名</p> <p>B 30名</p> <p>C 4名</p> <p>D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の兼ね合いを見ながら計画的に行えるようにしていく必要がある。</li> <li>・「食育」に関する取り組みの情報を周りからも取り入れ、考えていく必要がある。</li> <li>・「食育とは」という根本的なことを栄養士と保育者とで語り合い、保育に生かされるべきと思う。</li> <li>・子どもたちが食に対してさらに興味をもてるように、まずは職員の食育への意識を高めていきたい。</li> <li>・給食室の職員と保育者との連携においては、それぞれの思いを出し合いながら取り組めるような場を設定していきたい。</li> <li>・クラスや学年でねらいを持って取り組むことができた。</li> <li>・子どもたちが給食室の職員と関わる機会がクッキングのみだったので、給食時間等にももう少し交流の機会を作り、食育の幅を広げたい。</li> <li>・苦手な食材が多かったり食が細かったりする子が多い学年だったので、様々な食物を育て収穫し調理しておいしく食べる経験の機会を大切にしたい。</li> <li>・もっと土に触れたり育つ様子を身近に感じたりする機会をもちたかった。</li> <li>・にじの子どもたちもクッキングを楽しむことができた。できることは限られているが、食べることの楽しさにつながったので、もっと企画できたら良いと思う。</li> <li>・アレルギー児も一緒に食べられるクッキングを行うため、給食室の職員と連携し、試作もしながら取り組むことができた。</li> <li>・5歳児はクッキングでひつまみ作りをし、岩手の郷土色に興味をもて良かった。</li> <li>・「楽しんで食べる」を目標に子どもと向き合うことができた。食事のマナーについても少しずつ意識できるようにした。</li> <li>・外部の人も食べたいと思うような給食の写真の工夫があると、SNSの効果も上がるのではないかな。</li> <li>・野菜を育てて収穫し食べる体験をすることができたので良かった。</li> <li>・簡単に取り組めるクッキングなら年に数回行って良い。</li> <li>・アレルギーの子も安心できるクッキングを工夫したい。</li> <li>・作ってくれた人への感謝の気持ちやマナーを教えた。</li> </ul>
保護者に対する支援	保護者・地域への対応	<p>A 7名</p> <p>B 47名</p> <p>C 2名</p> <p>D 1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが終息した際には積極的なアプローチが必要である。</li> <li>・保護者の活躍の場があると良い。</li> <li>・コロナ禍であり直接保護者との接点は少なかったが、マメール、インスタグラム、各おたよりにより、より具体的に情報発信することが今出来得る最善策と思う。</li> <li>・コロナ禍で保護者や地域との交流がほとんど行うことができなかった。</li> <li>・保護者の気持ちに寄り添い、常に誠意をもって対応していきたい。</li> <li>・様々な家庭環境があるので、職員間でも意見交換しながら対応していきたい。</li> <li>・保護者から「園の様子が分からない」と言われたことがあるため、送迎時や連絡ノートを紹介して様子を伝えるよう努めている。また、学年だよりを通して、学年としての育ちや課題を伝えながら保護者に安心して見守ってもらえるよう努めている。</li> <li>・保護者との信頼関係や理解を得られないと子どもの成長へはつながっていかないと感じた。</li> <li>・一工区公園で遊ぶことがよくあるので、職員がごみを拾ったり、子どもたちと花壇の整備をしたりする等、何かできればと思う。</li> <li>・食事やトイレトレーニングなど保護者の意識を変えるために関わる必要があったが、家庭での協力が得られず連携を図っていくことの難しさを感じた。</li> <li>・子育てに悩んでいる保護者には寄り添い、必要に応じて市の子育て支援の利用を勧めたことで子どもの成長につながった。</li> <li>・朝の受け入れ時や降園時など積極的に保護者に声をかけ、コミュニケーションをとるよう心がけた。</li> <li>・健康面に関する情報提供は、デリケートな面もあるため担任や主幹とも相談しながら進めることができた。</li> <li>・コロナ禍で保護者が参加できる行事は少なかったが、保育参観でじっくり見てもらえることができ良かった。</li> <li>・土曜保育や長期休み、午前教育日等の申し込みを忘れていた保護者には声をかけ気づかせたり、申し込みが過ぎた場合にも状況に応じて柔軟に対応したりした。</li> <li>・散歩に出かける際には出会った近隣の方にきちんと挨拶をするように子どもたちにも伝えた。</li> <li>・進級に向けた取り組みについて、きちんと説明しながら行うことができた。</li> <li>・地域への対応はあまりできなかった。</li> <li>・保護者対応では、他の職員と連携しながら、温かく対応し安心して預けられるよう努めることが大切である。</li> <li>・おひさまは、バス通園等で保護者と毎日コミュニケーションを取ることが難しいため、電話やおたより帳を活用しこまめに様子を伝えるようにした。</li> <li>・担任間で話し合い、共通理解してから保護者へ伝えることを心がけたり、他クラスの課題や改善策を参考にしたりした点が良かった。</li> <li>・自分から挨拶をするよう心がけている。</li> </ul>

保育を支える組織的基盤	研修への取り組み	<p>A 4名</p> <p>B 40名</p> <p>C 6名</p> <p>D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートを取り入れて良かったが、コロナ終息後は足を運び研修を受けられると良い。</li> <li>・“保育”の職に従事することを決めた初任のころを思い、夢や「こうありたい」という思いを年度初めに共有した研修は、運営の大きな原動力になっていたと思う。</li> <li>・園外での研修に参加できる機会は減ってきているが、オンラインで受講する等できる限りの参加をしてきたと思う。</li> <li>・外部講師を招いての園内研修では職員の新たな学びの場となった。</li> <li>・園内研修の充実により、全体で共通理解を深める機会が多くなり保育に生かせることも増えた。</li> <li>・外部研修へ行く機会がなかったが、園内研修が貴重な学びの場となった。</li> <li>・自己研鑽が足りなかった。</li> <li>・園内研修では、保育や記録の仕方の研修を行いたい。</li> <li>・感染症等の発生状況にもよるが研修会には積極的に参加したい。</li> <li>・園内研修で絵本についての講演を聞き、すぐに保育に活かすことができ良かった。</li> <li>・保育のためなかなか研修に参加できない職員もいるので、みんなが学べるような研修の設定をしてほしい。</li> <li>・コロナ禍で研修に参加することが難しいが、園内研修やグループ園同士で密にならないように配慮しながら研修（他園の園内見学だけでも勉強になる）を行なえればと思う。</li> <li>・必要な研修が行われており、報告書を読むことで自分自身も学ぶことができている。</li> <li>・給食室の3園合同での研修が今年度も中止だったので、来年度は行えればと思う。</li> </ul>
	施設整備・管理 出納管理 職員処遇	<p>A 7名</p> <p>B 38名</p> <p>C 5名</p> <p>D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部とのやり取りや経営の見える化はなされているが、より一層運営へのかかわりが必要である。</li> <li>・職員一人一人の状況をしっかりと把握し、各部署がスムーズに機能できるよう、管理職同士の連携をしっかりと築いていく。</li> <li>・日頃から意識した取り組みができるようにしていきたい。</li> <li>・事故や怪我につながるような故障や破損はすぐ報告し、修理をしてもらうようにした。</li> <li>・教材や備品などの使い方や片付け方が気になることがあった。みんなで使うものは職員一人一人が整理整頓して使う意識を高めていくことが必要である。</li> <li>・保護者会会計を担当し、間違いがないようにきちんと確認をしながら進めることができた。</li> <li>・集計作業に必要な登降園チェック表への未記入がよくあるため、保護者にも促していきたい。</li> <li>・日誌も含め、パソコンを活用した業務が増えてきているので、パソコンの台数を増やして業務の効率化が図れれば良いと思う。</li> <li>・書類作成や会議など、必要なものを効率よくまとめ取り組むことで残業などが減ると思う。</li> <li>・施設整備、管理は、一人一人でもう少し意識をして行った方が良い。</li> <li>・より良い施設整備がされるよう気づいたことは発信、報告したい。</li> <li>・6月から施設内の点検をきちんと行うようになり、不具合な箇所などを発見できるようになった。</li> <li>・消耗品が無くなる前に、発注担当に声をかけるよう職員間で徹底できるとよい。</li> <li>・物品を使ったら元に戻したり、使い切ったら必ず報告し発注へつなげたりすることを意識し合うことが大切である。</li> </ul>

### 3. 令和4年度の目標 ※次年度への意見等を参考に立案

目標	内容
園児獲得に向けた取り組みを強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を活用し、広告掲載による未就園児サークル等や園開放の集客、園の様子を外部へ発信する。</li> <li>・ 園の情報発信としての内容の工夫 (園日より、ホームページ、ドキュメンテーション、SNS等)</li> </ul>
一人一人に寄り添う保育を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0～2歳児を中心に、月齢や個々の発達に合わせた小グループ制保育</li> <li>・ 指導計画の見直し(0～5歳児までの継続した育ち)</li> </ul>
業務内容の簡素化に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間外勤務を削減するための行事等の業務内容や役割分担の見直しをする</li> <li>・ 園内外の管理、整理整頓への意識を高め、仕事がしやすい環境を意識する</li> </ul>

#### 4. 施設関係者評価の報告

令和4年5月13日に施設関係者評価委員会を開催し、「令和3年度ふじなでしこ こども園自己評価」「令和4年度の目標」について評価した。

##### (1) 「令和3年度ふじなでしこ こども園自己評価」について各委員の意見

###### ア. 自己評価の取り組みについて

- ① 職員からたくさんの意見が出ていることが、すでに改善案へとつながっているのではないかと感じる。
- ② 様々なことに取り組んでいることが分かった。
- ③ 自己評価の結果を見ながら、職員の意識の高さを感じた。率直に意見を出していることは良いと思う。
- ④ 自己評価を行うことで、認め合いながら一人一人が自信をつけていくものになるのではないかと感じる。職員が自信をもって仕事をしているのを感じる。保護者に対してもハキハキと対応している姿に感心する。保護者としても安心して子どもを預けている。

###### イ. 園の情報発信（Instagram）について

- ① フォローしている側としても楽しみにしている。給食の写真や調理中の写真も良いと思う。様々な内容を更新してもらえればと思う。
- ② 写る子どもたちに偏りがないように心がけてほしい。
- ③ ハッシュタグの付け方について、「#保活」「#幼稚園」「#保育園」が加わると、園を探している人にもヒットしやすく、園児募集にもつながるのではないかと感じる。
- ④ 投稿は、外部発注という方法も良いと思う。職員の業務削減につながるのではないかと感じる。

###### ウ. 食育活動の充実について

- ① 給食について地産地消の取り組みは良いと思う。行事食は刺激になると思うので、今後も取り入れてほしい。
- ② 給食の見本を展示していることで、子どもがどのようなものを食しているのか、どのくらいの量を食べられるのか、ということが分かり安心している。

###### エ. 衛生・健康管理の徹底について

- ① 食事の際の園児服を脱がせているのが、アレルギー対応による配慮であったことを初めて知った。職員が細やかな対応をしていることをもっと情報発信しても良いと思う。

###### オ. 園庭環境の充実について

- ① 園庭の改造は魅力もあり良かったと思う。

###### カ. おひさま職員（以上児クラス）とにじ職員（未満児クラス）の協力体制の強化と人材育成について

- ① お互いの連携についてスムーズにやりとりができればと思う。さらに若手の人材育成へとつなげてほしい。
- ② 人事により職員が0～5歳児の保育を万遍なく経験するのは大事だと思う。職員の雰囲気は良いと感じている。

##### (2) 令和4年度の目標について各委員の意見

- この目標で1年間取り組んでほしい。